

2. 前回の協議結果

2-1 第2回協議会での合意事項

第2回協議会では、「太郎右衛門自然再生地の望ましい姿」について議論をしていただいた結果、合意事項として以下の内容が示されました。

現況の湿地環境を残す

乾燥化防止・攪乱の創出・水質確保

から水の確保を検討する

それに伴い流水環境も検討する

水の確保に関しては冠水頻度の増加や湧水等の持続的方

を検討する（ポンプアップや大規模工事は考えない）

本川の環境も今後の課題とする

2-2 第2回協議会ワークショップ内容の紹介

第2回協議会のワークショップで各グループから発表された内容を以下に紹介します。

【Aグループ：行森委員発表】

一番大きな問題として水の確保をどうするか。（ポンプを使ったような水揚げの仕方は継続が難しい。）

自然生態系を河川に戻すために、ある程度の氾濫や攪乱があるような状態に管理したい。流水か止水かについては、今後、（現実的に）可能な方向でまとめたい。

止水環境

- 陸地から湿地へ自然再生。
- どのような湿地を求めるのか。
- 現状の環境で保存して再生するのか、それとも入れるのか。
- 湿地化なら底がつながっていれば良い。中池の水を使って、上池、下池に水を。
- 現状の湿地を保全。
- 掘削は必要。
- 上池の掘削は必要。
- 掘って、細かい砂がたまるようになれば、上池にも水が入るかも。
- 湧水をできるだけ、湿地に集める仕組みを作る。
- 人工的でない仕組みを作る。
- 旧流路に年3回ほど洪水を。
- 水が良く集まるように、緩傾斜をつける。
- 雨を上手く利用する。
- 自然の営力で湿地を保全する。
- 中・小洪水でも上池に水が来るように。
- 普段は止水、洪水時は流水。雨水が集まるように。
- 上池と本川、下池と本川の部分を掘ると、洪水等で水が来て乾燥化を防げる。
- 治水上はあまり問題ない。
- 洪水の度に土壌が変化。保水性をUP。
- 水量の確保。
- 供給される水の量と質で環境は大きく変わる。
- 水の供給、井戸を掘ったらできないか。ポンプアップ
- ポンプアップはコストの問題がある。
- ポンプアップは周りの井戸が濁れる。
- 地下水水位のコントロール。
- 地下水自体が下がっている。地盤沈下の要因。

流水環境

- 横堤に穴を開ける。
- 上流から旧流路に水を流す。
- 本川を埋める。堰を作る。上流から配水。
- 蛇行した川を作りたい。生物多様性のための氾濫原を作りたい。
- 100年前の本来の荒川＝氾濫原。
- 氾濫原野である大宮平野に荒川の土砂が堆積している。
- 河川敷を利用した遊水効果。
- 流水化のためには、事業地外から水を持ってこないといけない。
- 市野川から水を持ってくる手段有り。ただし、水質が悪い。
- 市野川は、事業対象地外。
- 流水化には限度がある。
- 治水上、危険である。
- 堰上げの可能性。治水上問題有り。
- 本川も変える。河床を上げる。治水上問題有り。
- 本川の水を支流へ流すことは治水上問題
- お金の問題。非現実的。

- 最終的には川の自然再生 100年後を見据える。
- 100年先を考えた川の整備。
- 地域住民の積極的な協力・参加。
- 鳥たちの受け皿になるような環境に。
- 子供が自由に遊べる空間、水質。